

ひがしいけじり いけのうち 東池尻・池之内遺跡、大藤原京左京五条八坊の発掘調査

調査地 橿原市東池尻町地内

期間 平成 26 年 2 月 3 日～3 月 19 日（予定）

調査面積 310 m²

調査原因 範囲確認調査

調査機関 橿原市教育委員会 文化財課

1. 調査地の環境

調査地は橿原市の東南部、香具山の北東 1.1 km、戒外川左岸に位置します。

桜井市池之内から派生する丘陵の北西端にあたる地点です。

周辺地形は、戒外川左岸から西方の御厨子観音が位置する丘陵にかけて、長さ約 300m、幅約 20～55m、高さ約 2～3mの土手状の「高まり」が、谷を塞ぐ形で帯状に延びています。この「高まり」とその南に広がる水田一帯が、かつての「磐余池」だったのではないかとされています。

2. これまでの調査成果

橿原市教育委員会では平成 21 年度から、この周辺で発掘調査を行っています。発掘調査によって、この「高まり」が人工的に築かれた堤であることが確認されました。堤の築造時期は、6 世紀後半頃であると考えられます。

堤上には、6 世紀後半から 7 世紀前半にかけての時期の建物が存在してい



発掘調査地位置図 (S=1/20,000)

ます。これまでに、大壁建物 1 棟、掘立柱建物 3 棟・掘立柱塀 2 列、竪穴建物 2 棟が見つかっています。

また、堤上では水量調整を行うために掘られたと考えられる、大溝（深さ 4.3m 以上）を確認しています。大溝は藤原京の時代（7 世紀末～8 世紀初め）に埋められています。

平成 25 年度には、これまでの調査成果をもとに調査地周辺を「東池尻・池之内遺跡」という名称の新たな遺跡として登録を行いました。

3. 今回の調査成果（平成 25 年度の調査）

調査位置は、堤が南北方向に伸びる部分の東半にあたる地点である。

調査区の中軸付近で、東へ向かっての地形の落ち込みを確認しました。これは堤上面の東肩であると考えられます。これをもとに今回の調査地周辺における堤の上面幅（東西幅）を計測すると、約 25～33m になります。また、落ち込みは調査区南側で東へ屈曲する様子を見せています。今回の調査によって、堤のより詳細な形状が復元できるようになりました。これまでの想定よりも、よりクランク形に近いはっきりとした屈曲をもった形状であると分かりました。

調査区中央付近では、大溝の西肩を確認しました。大溝の幅は約 15～20m になります。堤が南北方向から東西方向へと屈曲するコーナー部分に溝を掘削したようである。

堤の東端上面から東斜面にかけての範囲には、12 世紀後半頃に大規模な盛土が施されていることを確認しました。盛土の高さは 2.0m 以上あります。12 世紀後半頃に調査地の周辺で大規模な土地改変が行われたようです。

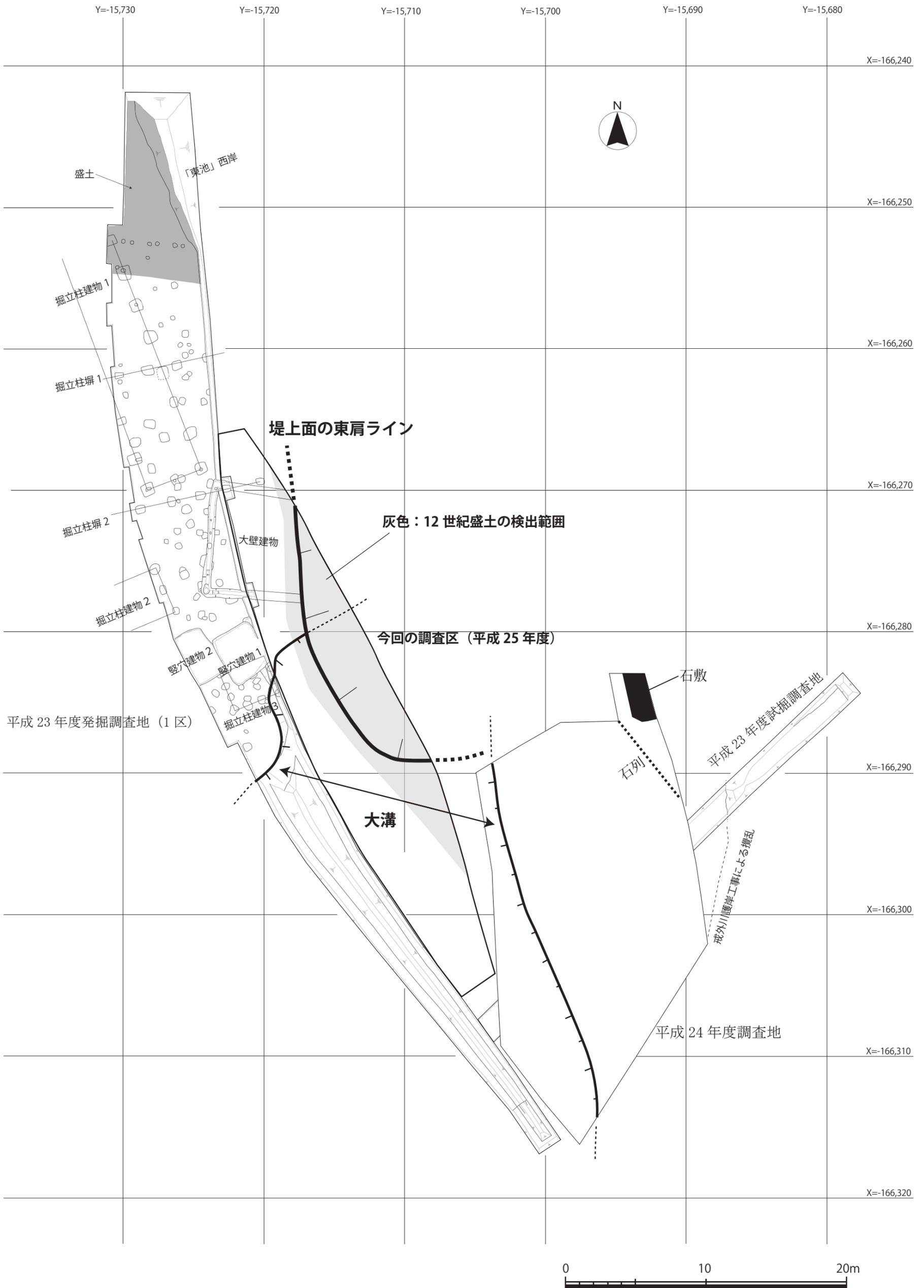
<調査に関するお問い合わせ先>

橿原市教育委員会 生涯学習部 文化財課

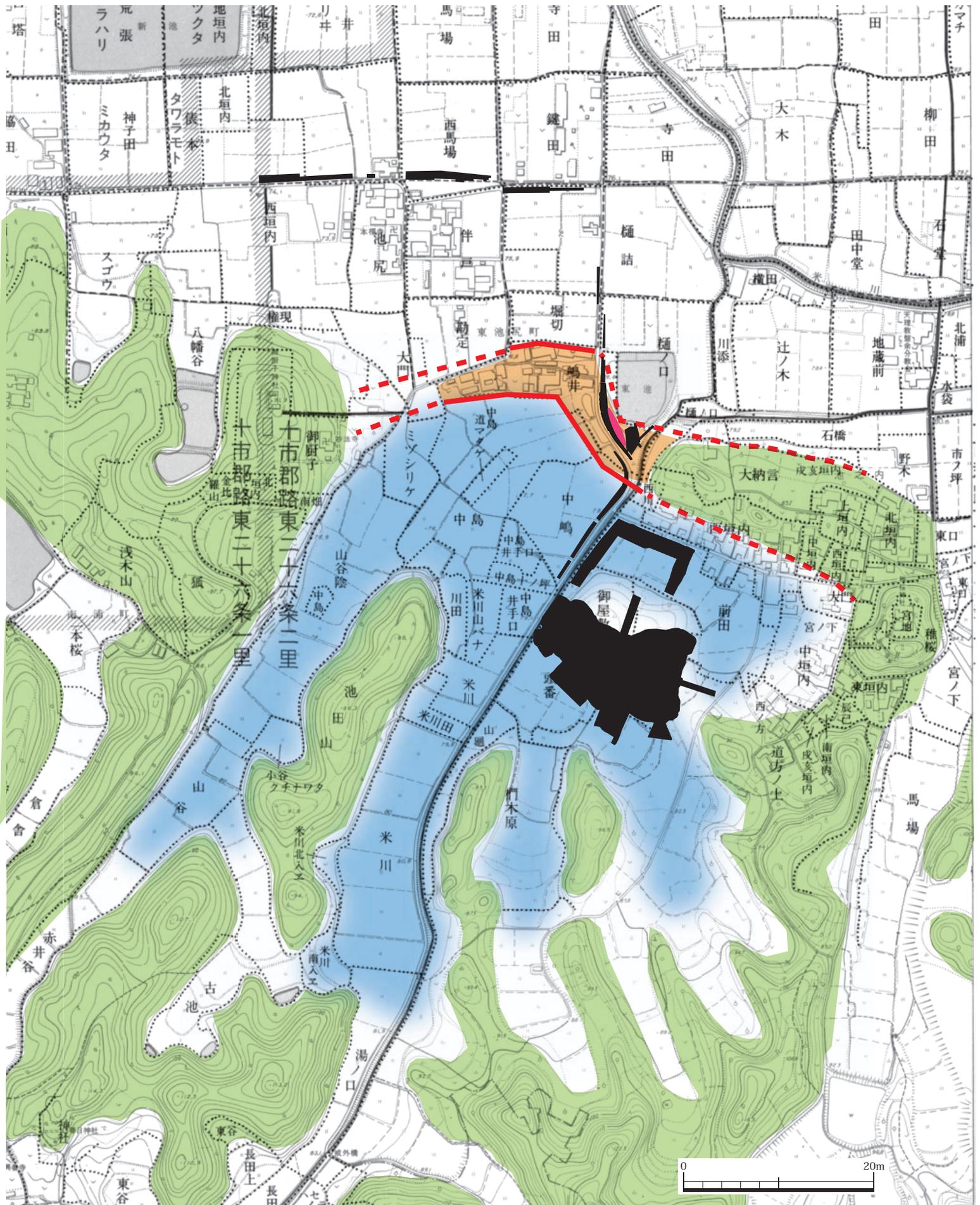
橿原市川西町 858-1

※土・日・祝日を除く

TEL:0744-47-1315（直通）



遺構平面図 (S=1 / 250)



東池尻・池之内遺跡 池・堤復元図 (S=1/5, 000)



調査区全景（南東から）



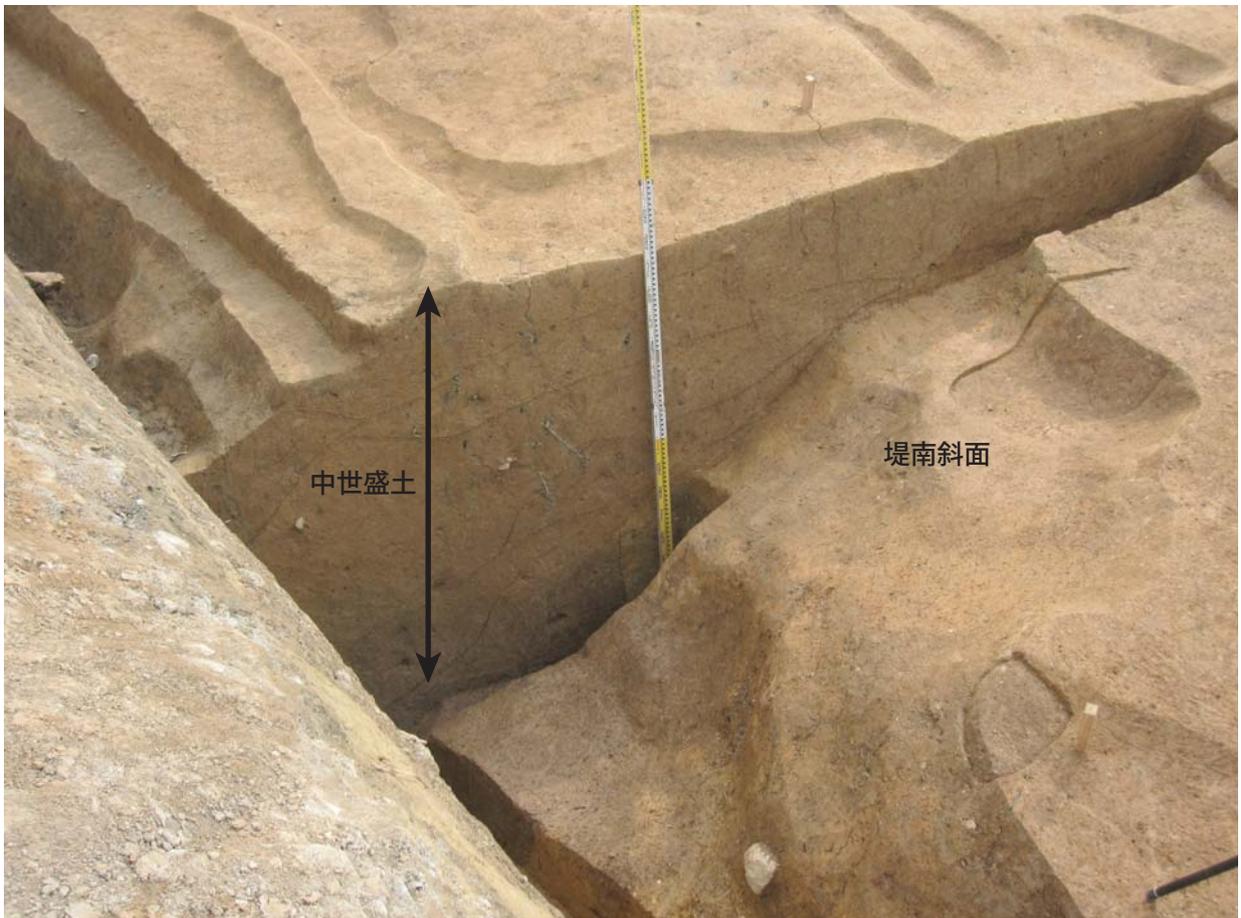
調査区北半 堤上面 遺構検出状況（北西から）



調査区南半 大溝・中世盛土検出状況（南東から）



調査区中央 大溝東肩検出状況（西から）



調査区北側 中世盛土断面（北から）